

令和2年6月19日

全国素材生産業協同組合連合会
専務理事 川端 省三

- ・ 川上における木材生産事業（伐採事業）については、木材需要減、製品生産減に伴う丸太の受け入れ制限や木材価格の下落等の影響が顕在化してきており、地域によっては、山元在庫の増加や森林所有者の伐り控えなどにより生産活動が停滞してきている。
- ・ 木材価格の下落幅の大きい地域においては、木材生産・販売の縮小を検討したいが、事業継続、雇用維持のためには、手持ち山林を含め木材生産を継続せざるを得ず、経営的にもギリギリの状況。木材生産を休止する場合には代替事業が不可欠である。
- ・ 令和2年度補正予算において、原木保管に係る支援措置に加え、雇用維持のための保育間伐等に係る措置を講じていただいたことは大変ありがたいが、令和2年度当初予算としてすでに配賦された予算内での措置と聞いており、その活用は限定的とならざるを得ないものと考えられ、公共预算として追加的な財源措置を期待する。
- ・ 国有林野事業における木材生産事業（請負生産事業）は年度当初から計画的な発注により事業が推移しているが、現下の木材需給動向から、国有林の役割発揮の一環として、国有林材の供給調整、生産調整が行われる場合には、上述と同様、事業継続、雇用継続の観点から、当初予算の振替や追加的予算措置等により、切れ目のない代替事業の発注等の措置が不可欠である。

集成材に関する動向について

日本集成材工業協同組合

- ・ 第1四半期、第2四半期は、新設住宅着工戸数が対前年1割減で推移し、プレカット工場の稼働率も9割を切って推移したが、集成材の生産量自体は前年との対比で横ばいあるいは微減で推移した。
- ・ 新設住宅着工戸数の大幅な減少による生産量の減少などコロナの影響は第3四半期以降、顕在化するのではないか。

以上

北海道における新型コロナウイルスによる影響について

北海道素材生産業協同組合連合会

北海道内における林業・木材産業においては、新型コロナウイルスの影響が現れており、製材工場においては、対前年同月比において、製材出荷量が減少していることに伴い、製材生産量及び原木消費量が減少し、原木及び製材の在荷量が増加してきており、厳しい状況となっている。

また、製材工場の原木在荷量の増加により、素材生産事業者においても、原木受入制限や販売不振などの影響があり、素材生産動向については、新年度に入りさらに悪化してきている。

なお、原料材については、木質バイオマス発電等での活用により、新型コロナウイルスの影響は比較的少ない。

以上のような状況の中で、道庁の北海道林業・木材産業新型コロナウイルス対策に関する連絡会議や森林管理局の国有林材供給調整検討委員会が開催され、新型コロナウイルスの影響の把握や対策検討等が推進され、先ず、木材の供給調整を図るため、立木販売の搬出期間の延長等が打ち出されている。

今後の対策については、原木・製材の供給体制が一旦縮小するとそれを回復するには、人手不足の社会情勢の中にあっては非常に厳しいものがあることから、川上から川下を含めて、供給体制が維持されるよう一体的に取り組む必要がある。

【参考1】令和2年4月の道内の製材工場動態速報の概要

○ エゾマツ・トドマツ

住宅着工数の減少などの影響により、原木消費量は令和2年1月以降の落ち込みが大きい。

また、例年、春先からの原木消費の増加により、原木在荷量は減少していくが、今年は原木消費が伸び悩んだことにより、在荷量が多くなっている。

○ カラマツ

世界貿易の減少により梱包材の需要が減少し、原木消費量は2年1月以降、急激に悪化し、特に4月は昨年8割以下となっている。

また、原木消費量の落ち込みにより、原木在荷量はさらに増加している。

※北海道が公表している製材工場動態速報（令和2年4月）における対前年同月比
単位：％

樹種	原木消費量	原木在荷量	製材生産量	製材出荷量	製材在荷量
エゾ・トド	87.7	108.5	84.6	81.3	137.1
カラマツ	73.5	120.8	75.8	77.9	110.9

【参考2】道内の素材生産動向

令和2年5月20日に北海道森林管理局が公表している道内の素材生産動向の単純分布指数（DI）によると、近年においては、比較的順調にプラスで推移してきたところであるが、今年4月からマイナス（-5）となり、5月にはさらに悪化（-19.5）している。

令和2年6月17日

東北地区の木材生産・流通状況

ノースジャパン素材流通協同組合 駒木貴彰

1. 当組合で把握している東北地区の製造種別木材工場の現状（6月現在）

1) LVL工場

新型コロナウイルス感染拡大の影響をうけて急激に状況が悪化し、生産量にして50%の減産となっている。LVL生産を増強するために積極的に原木を集荷していたため、現在は過剰在庫となっている。そのため、スギは納入制限、カラマツは納入一時停止となっている。

2) 合板工場

合板市況は非常に厳しい状況になっており、生産量にして30~40%の減産となっている。そのため、原木の厳しい受け入れ制限が実施されている。工場によっては在庫の状況・一日の納入量が過剰な場合など突然納入停止になることもある。また、土場在庫が多くなっているため、一度に大量納入しないように分散納入を指示されたり、土場の在庫量によって納入工場が変更になることもある。こうした状況から、スギは納入制限、以前は不足していたカラマツやアカマツも納入制限となっている。

3) 集成材工場

合板工場に比べると厳しい減産はないものの、10~20%の減産を行っている。製材工場や合板工場の受け入れ制限で行先を失った原木が集成材工場に集中して在庫量が増加し、5月から大幅な受け入れ制限を実施している。また、原木の受入れ基準も絞られており、径級や長級の制限のほか伐採後3か月以上経過した古材の納入は不可となっている。樹種別では、スギは納入制限、カラマツは一時停止、アカマツは納入可となっている。

4) 製材工場

工場ごとにより対応が異なっているようであり、減産していない工場から生産を休止した工場まで様々である。

5) バイオマス（チップ）工場

バイオマス材については受入制限がなく、供給が続いている。また、行先を失った合板材などがバイオマス向けとして流れる状況もあり、供給量が増えている。現状では20%アップの状況にある。そのため、バイオマス材の品薄感は一時的に解消されている。

2. ノースジャパン素流協の令和2年5月分販売実績（NJ素流協ニュース185号より）

（5月分の出荷量は、燃料用以外は前月比、前年同月比とも低下）

樹種	合板・LVL用			製材・集成材・その他用			計		
	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)	当月出荷量 (m ³)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	5,812	78.8	72.3	6,391	76.2	49.1	12,202	77.4	58.0
カラマツ	5,089	99.2	99.0	225	51.3	81.8	5,314	95.4	98.1
アカマツ	3,615	153.0	86.8	2,251	106.3	131.1	5,866	130.9	99.8
その他	0	*	*	712	133.6	155.0	712	133.6	155.0
合計	14,515	97.6	83.7	9,579	83.5	61.9	24,094	91.5	73.4

樹種	燃料用		
	当月出荷量 (t)	前月比 (%)	前年同月比 (%)
スギ	6,154	107.3	160.0
カラマツ	3,125	113.4	100.0
アカマツ	2,824	162.3	75.9
その他	39	521.2	*
合計	12,142	118.6	113.5

注) *印は前月又は前年同月実績がなかったことを示す。

- 新型コロナの影響で原木受入制限が厳しく、前年同月比で用材は約8,000m³の販売が減少。
- 一方、新型コロナの影響のないバイオマス材（燃料用）は前年同月比で約1,500m³増加。
- 製品の動きも先行き不透明な状況のため、6月以降も更に厳しい状況になることが予想される。

3. 河北新報記事（6月14日付）及びNJ素流協の推定

原木滞留の状況を報道している。この記事によれば、伐採業者の土場に置かれたままの原木は、青森県が5月末で6万m³、秋田県が5月上旬で5~6万m³、宮城県が4月時点で1万m³と推定されている。

岩手県についての情報は無いが、NJ素流協の推定では3万m³程度とみている。